(別紙)

成果の説明書

(氏名)　阿久津　由佳	(学部)　経済学部

1　重要事項

(1)　カリキュラム改革

2014 年度に最も力を注いだのは、英語カリキュラム改革案の策定である。2017 年に本格実施予定の大規模なカリキュラム改革に向けて、他の英語部会のメンバーと協力して、改革案作成のためのデータ収集および分析と、その結果を取り入れたカリキュラム改革案の作成を行った。

具体的には、

①学生のニーズを把握するためのニーズ分析調査の企画、作成、実施、分析およびまとめ：経済・地域の両学部の全学生の約半数(2000 名)に対して 7 月に実施。4 月から企画会議を重ね、調査文面を作成、6 月にパイロット調査実施、文面調整後、7 月に本調査実施、8 月からデータ集計、分析、まとめをおこなった。学生が求めている英語教育がどんなものなのかが明確になり、カリキュラム改革作成において非常に有益な情報を得ることができた。また、結果の要点を 1 月の FD で発表した。

②教員の英語教育に関する意識の調査の企画、作成、実施、分析およびまとめ：両学部の全専任教員に対して、本学での英語教育に期待することや、専門教員の立場から考える学生が必要とする英語力などについてアンケートを実施。10 月から企画会議を実施し、文面を作成、1 月～2 月に実施した。

③カリキュラム改革案の作成：基礎教育の在り方検討委員会から指名され、一元化を視野に入れた両学部統一英語カリキュラム改革を検討するワーキンググループの一員として、両学部の英語教員と協力して、新カリキュラム案についての答申を作成した。作成に当たっては、上記のアンケートの結果も取り入れながら、本学学生の特性、状況、ニーズなどに対応しつつ、社会の求める英語力の養成と魅力あるプログラムの実現を心掛けた。

(2) 教育

現行の授業の改善に向けての取り組みも引き続き行っている。2014 年度は、前年度までのデータ（社会で必要とされている英語力に関するデータ、TOEIC 問題の傾向の分析、学生が能動的に学習できる英語授業の形態についての実験的取り組み等）を活かし、学生からのニーズの高いビジネス英語および TOEIC に頻出する語彙・表現を、リスニングの形で本格的に授業に取り入れた。学習形態についても、学生の能動的な受講を促す工夫を続けた。授業評価及び個別のアンケートにおいても特に「ビジネス英語が有益」とのコメントが多く、成果が出ていると考えている。

また、授業外での積極的学習を促すため、授業時間外に希望者を対象に個別の英語学習相談を実施し、各自のレベルや適性、目標に合わせた学習計画作成のアドバイス等を行うことも継続している。

(3) 研究

前年度に引き続き英語の語用論的要素をどのように学校英語教育に取り入れるかについての研究を進めている。前年度に実施した学生への語用論教育についての聞き取り調査およびアンケートの分析を進めている。

また、日本語と英語の語用論表現の違いを意識して学習することによる表現定着の効果についてのパイロットスタディをもとに、本調査に向けてのアンケートの質問文

の修正、追加などを行った。
　また、ECAD2014 に参加し、最新の教育の動向についての知識を深めた。

2　その他の事項

・経済学部英語部会長として、カリキュラム改革をはじめとする英語化関連の課題解決のための英語部会の開催、運営、まとめなどを行った。

・国際交流委員会委員として、アメリカおよびオーストラリアへの学生派遣を担当した。また学生への個別留学相談への対応を行った。

・基礎教育の在り方検討委員会のワーキンググループメンバーとして、新英語カリキュラムに関する検討を行った。

3　次年度以降の計画・抱負

　2015 年～2016 年にかけては、新英語カリキュラムのパイロット実施及び本格実施に向けての準備を中心にしていきたい。具体的な実施までにはクリアすべき点が多々あるため、他の英語教員と協力して魅力と特色のあるプログラムの実施を実現したい。
　また、個人の研究についても、昨年度の研究結果について論文の形で発表したいと考えている。